

講 評

早稲田大學政治經濟學會 総務委員長

上 條 良 夫

2023年度本學會論文コンクールには、大学院生から2作品、学部学生から28作品、計30作品の応募がありました。その内、数理・統計計量部門への応募が25作品、歴史・思想・その他部門への応募が5作品となります。多数のご応募、誠にありがとうございます。厳正なる審査の結果、次の6作品を顕彰いたします。以下の通り紹介し、それぞれの業績を讃えます。おめでとうございます。

数理・統計計量部門（大学院生）

優秀賞

[Qimo Zhu]

Navigating Foreign Pressure: How Media Control Moderates the Effect of Human Rights Shaming on Political Liberalization

この論文において著者は、国際的な人権非難、メディアの自由、そして独裁政権における民主化の関係について検討している。国際的な非難が民主化の促進に与える影響を調べるため、1976年から2000年までの100カ国のパネルデータに対してマルチレベル分析を行ない、メディアの自由度がより高い政権では、非難が民主化を促進するのにより効果的である一方で、メディアが厳しく統制されている政権では、非難による民主化への抵抗が存在することが確認された。論文は良く書けており、データ分析も丁寧である点を評価できる。その一方で、学術雑誌への掲載を目指す上では、先行研究との差別化および理論構築がやや不十分であり、さらなる改善が必要である。

数理・統計計量部門（学部学生）

最優秀賞

[Sota Araki]

Do Elections Divide the Public? — Affective Polarization and the Outcome of Elections —

選挙は人々を分断するのか (Do Elections Divide the Public?)。タイトルにもなっているこの一文から論文は始まり、その後、選挙の結果がどのように感情的極性化に影響するのか、というリサーチクエスションへと展開される。アメリカの大統領選挙前後に実施されたアンケート調査 (American

National Election Studies) と大統領選の結果を組み合わせたデータを用いてこの点が検証される。分析結果は、感情的極性化は選挙の敗者（の支持者）よりも勝者（の支持者）においてより顕著であることを示唆しており、政治学の選挙研究において一定の価値を有する結果といえるだろう。加えて、論文は極めて良く書けており、その点からも評価に値する。まさに最優秀賞にふさわしい論文である。

優秀賞

[田中 萌映子]

国際協力の波及効果の幻影 ―環境問題と国家元首交代への着目―

ある分野での国際協力は他分野への協力へと波及していくのだろうか。本論文で著者はサーベイ実験からこの点を明らかにすることを試みている。サーベイ実験回答者は、環境問題に対する協力状況に関する情報を刺激として提示され、その後、他分野における協力意思について回答した。先行研究のリプリケーションを目的として、実験デザインは丁寧に検討されており、その点を高く評価できる。その一方で、当該先行研究自体の分野における重要性の記述が弱く、その結果、本論文自体の魅力も損なわれている可能性が否めない。

優秀賞

[菊地 圭汰]

新型コロナウイルス感染症と日本の国政選挙：政権与党得票率への影響の実証分析

本論文において著者は、都道府県毎に微妙な差異が存在している感染症対策が第49回衆議院総選挙（2021年10月31日投票）における与党得票率に与える影響を実証的に明らかにすることを試みた。既存の業績評価モデルやシャークアタックモデルから示唆される通り、不十分な感染症対策と与党得票率との間に負の相関関係が見出された点が興味深い。その一方で、結果に影響を与える変数の統制への若干の懸念が存在し、その点を補足することができれば、より良い論文となるだろう。

優秀賞

[石野 有真・國政 啓太・菅原 舞里奈・那須 清崇]

日本の自動車関連企業におけるリコールの株価下落効果

企業の業績に関するバッドニュースが株価に悪影響を与えることは想像に難くないが、その効果を推定することは容易ではない。本論文において著者たちは、自動車業界におけるリコール報道が当該企業の株価に与える影響について、日本経済新聞の記事データおよび株価データを利用して明らかにすることを試みた。Generalized Synthetic Control Method (GSCM) という新しい手法を利用した推定結果より、リコール情報が株価にマイナスの影響を与えるものの、その効果は平均するとさほど大きなものではないことを確認した。リコール以外のバッドニュースにも分析を広げることで、論文の価値をさらに高めることができるだろう。

歴史・思想・その他部門（学部学生）

優秀賞

[Leon Raphael Schweizer]

Reexamining National Identity: Europe's Integration Crisis

ヨーロッパにおいて増加する移民は、しばしば現地住民からの反発を招き、極右ポピュリストの台頭の原因となりうる。著者は、このような問題に対処する上で、ヨーロッパにおける国家アイデンティティの再構成の必要性を強調し、歴史的な経緯、自己認識、グローバリゼーションといった、国家アイデンティティに影響を与える多様な要素について検討を行なっている。全体として、さまざまな知見を取り込んだ包括的な議論を展開しており、その点を評価できる。その一方で、方法論的な厳密さにやや欠けており、その点から議論を見直すことで、より質の高い学術論文となることが期待される。

以上

最優秀賞、優秀賞に選出された上記6作品以外にも、内容的に優れた論文が多数提出されました。来年度も、同様の部門を設定して審査する予定です。大学院生・学部学生の皆さんには、奮ってご応募下さるよう、お願い致します。